

【公民・現代社会】

1. 「公民科」の目標（学習指導要領）

広い視野にたつて、現代社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としてのあり方生き方についての自覚を育て、民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う

* 「現代社会」の目標（学習指導要領）

人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としてのあり方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2. 本校における「公民科・現代社会」の教育の目標

「現代社会」は現代の社会に対する関心を高め、現代社会の理解と人間としての在り方生き方とを関連させて学ぶことになっている。同時に現代社会は「世界史」「地理」を学ぶ基礎科目として多様な角度から学ぶことのできる内容である。本校の基礎学力に課題をもって入学した生徒達には高校生としての在り方生き方とのかかわりに着目して学ぶ姿勢をつくっていく。

具体的に社会科のねらいを達成するために下記の内容で実践する。

- ① 自主的にあいさつを交わすことが出来るようにする。
- ② 図書館との連携を密にし、図書の紹介を進めていく中で読む習慣を身につけるようにする。
- ③ 全体集会、講演会などで聞く態度を養っていく。
- ④ 慰霊の日に向けての俳句作り、読書標語、校内意見発表大会を通して、表現の場を体験させる。
- ⑤ 各種の作品応募、読書感想文等にも積極的に取り組ませる。

3. 本校の各学年の目標

1 学年

- ・ 中学校の社会科の理解度をふまえ、現代社会の課題について積極的に関心を持ち意欲的に追求する態度や技能を養う。
- ・ 高校3年間の社会科授業の見通しをたてさせる。
- ・ 中学で学んだ日本国憲法の復習の上に社会規範を理解させる。
- ・ 新聞等になじませ、時事問題に取り組み勢をつくる。
- ・ 図書館の活用、情報機器の利用、統計資料の取捨選択・読みとり等、自ら学ぶ姿勢をつくる。
- ・ 青年期の課題を高校生の課題としてとらえさせ、自己の在り方生き方を考えさせる。
- ・ 教科書の使用、ノートを活用、参考書の利用方法を自ら工夫させる。
- ・ 時事問題と高等地図の併用で政治的・地理的・歴史的認識を高める。

2 学年

- ・ 1学年の学習をふまえ課題学習への姿勢を高め課題研究にかかわる技能を身につけさせる。(発表や討論)
- ・ 高校生としての在り方生き方をより深く考えさせ、現代社会との関わりで世界的視野を広げさせる。(総体的にとらえさせ社会組織体を大きくとらえさせる・多角的他面的に)
- ・ 地歴科・家庭科・情報等の関連を理解させ、総体的にとらえさせ社会組織体を大きくとらえさせる・多角的他面的に)

4. 教科書名と補助教材

教科書・補助教材	出版社	使用学年	備考
現代社会	東京書籍	1・2学年	1, 2年同じ教科書
新詳高等地図	帝国書院	1・2学年	
現代社会用語集	山川出版社	1・2学年	

5. 評価の方法

各教科の評価は1、2学期が100点法（素点）、3学期が5段階評価で出される。評価の基準としては、定期考査（中間考査・期末考査）、臨時考査（時事問題、地図、豆テスト等）、提出物（ノート、プリント、新聞・スクラップ等の感想文）、日々の授業態度や出席状況をみます。

定期テスト60%	新聞切り抜きファイル 10%	プリント、ノート・発表 30%
5段階評価	100点法	左記が5段階評価の基準点です。評価の仕方は絶対評価で、所定の点数を取れば、何人でもその得点に応じた評価を受けることができます。
5	85～100	
4	70～84	表の最下段にある「①」というのは、その教科の課題目標が達成されていないということと、授業時数が3分の1に満たない生徒に対してつけられる「未履修」というものです。
3	55～69	この「未履修」が1教科でもあると進級できませんので気をつけましょう。
2	35～54	又、「34点以下」は「1」と評価され、これを単位保留といい、その科目は修得しなかったこととなります。
1	0～34	
①	未履修	

正当な理由（病気、忌引き等）があつて、定期考査等の受験が出来なかった場合は、本人が教科担当の先生に申し出て、追考査をしてもらいます。もし追考査が出来なかった場合は、日頃の授業態度やこれまでの点数などから「見込み点」を出したり、別の課題を与えたりします。

なお、定期考査で不正行為をした場合は0点になりますので、絶対にしないこと。

6. 「公民科・現代社会」の学習方法

- ①教科書、ノート、地図帳、筆記用具を持って授業に参加する。
- ②一人で新聞が読めるように、常に新聞に親しむ。
- ③新聞の時事問題を取り上げ自己の感想をまとめるようにする。
- ④新聞の切抜きの継続や各種統計資料を収集する。
- ⑤世界を知るために常に地図帳を活用しよう。
- ⑥定期考査は1学期2回、2学期2回、3学期学年末のみ行う。
- ⑦「税金」「選挙」「国会の動き」等の国内の動きを作文する。これらの提出物は、評価の大きなプラス点になる。
- ⑧社会組織の基本である日本国憲法を繰り返し何回も読んで理解していく。
図書館で多くの資料を意欲的に活用する。
インターネット情報で自己学習をする
教科書は繰り返し読み理解を深める

7. 授業への姿勢

- (1)自習時間は他クラスに迷惑にならないように静かに課題をやり、提出すること。
- (2)先生と授業を受ける契約は守ってもらう。
- (3)教科書、ノート、地図帳、筆記用具は必ず準備する。

現代社会シラバス（1学年） 北部工業高等学校

【現代社会】

学期	1 学 期				2 学 期				3 学 期			
月	4 月	5 月	6 月	7 月	9 月	10 月	11月	12月	1月	2月	3月	
週	1 2 3	4 5 6 7	8 9 10 11 12	13 14	15 16 17 18 19	20 21 22	23 24 25	26 27 28	29 30 31	32 33	34 35	
時 数	6	8 (テ1)	8 (テ1)	6	8	8 (テ1)	6	6 (テ1)	6 (テ1)	4	4	
単 元 名 (教材名)	1、地球環境とわたしたちの未来 2、資源と私たちの生き方 3、豊かな生活と福祉社会のあり方	1、大衆の時代 2、情報化の進展と生活 3、国際化の中の人間 4、小子、高齢化社会を超えて	1、青年であること 2、近代科学と生きがい 3、生きがい進路の創造	1、日本人のものの考え方 2、外来文化の受容と日本の伝統思想	1、民主政治の原理 2、民主政治のしくみ 3、世界の主な政治体制	1、日本国憲法と三つの原理 2、基本的人権の保障 3、基本的人権の保障 4、新しい人権と人権の国際的広がり	1、国会と政党 2、内閣と行政 3、裁判所と法の支配	1、世論と政治 2、選挙と政治参加 3、地方自治と社会	1、平和主義と安全保障 2、民主社会の倫理と思想	1、個人の自由課題に取り組む	2、個人の自由課題に取り組む	
単元のねらい	1、地球問題への関心意欲を高める	1、社会的現象への知識理解を養う	1、青年期の発達課題を考察する	1、民主主義と人間の尊厳の大切さを、関心を高める	1、国際的な事象への関心を養う	1、社会的な思考判断力を養う	1、社会ルールへの知識理解を高める	1、政治への関心を高める	1、社会建設への積極的な態度を養う	1、自己の道徳的見識を、来国際的視野で養う	2、自己の将来への道徳的見識を養う	
学習内容	1、地球問題のグローバル性を教える 2、エネルギー源の確保の意義役割を教える 3、宗教の意義役割を教える	1、大衆社会の特徴を教える 2、情報機器の役割と意義を教える 3、国際化への社会意識を教える 4、少子高齢化に対する主体的な態度を養う	1、青年期の発達課題を考察する 2、社会環境の重要性を教える 3、生きがい進路の考察を養う	1、日本人の伝統的な生き方を教える 2、外来文化の受容を教える	1、民主政治の基礎的意義を教える 2、現代民主主義の特徴を教える 3、自由主義・社会主義を理解させる	1、明治・現憲法の成立過程を教える 2、民主政治と人権の関係を教える 3、20世紀的基盤の本的人権を教える 4、新しい人権の意義を理解させる	1、国会の機能を教える 2、内閣の機能を教える 3、憲法と権威の関係を教える	1、世論の現を教える 2、選挙と政治参加の意義を教える	1、自衛隊の海外での活躍をビデオ等で紹介	1、自由課題をまとめさせる	2、自由課題をまとめさせる	
補助教材	地図帳の活用	資料活用（沖縄県の県勢の状況）	エコグラムの活用	日本のノーベル科学賞取得者の生き方を活用	生徒会の規定等を活用	刑事訴訟法の内容紹介	選挙期間の状況をテレビ視聴	自衛隊の海外での活躍をビデオ等で紹介				
評 価 テ ス ト	豆テスト	ノート提出	ワークノート提出	ノート提出 スクラップブックの提出	ワークノート提出	ノート提出	ワークノート提出	ノート提出 スクラップブックの提出	ワークノート提出			
社会科の 関連行事				社会科巡検				社会科巡検			社会科巡検	

現代社会シラバス（2学年） 北部工業高等学校

【現代社会】

学期	1 学 期												2 学 期					3 学 期															
	4 月			5 月			6 月			7 月			9 月	10 月		11 月	12 月		1 月	2 月													
週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
時 数	6			8(テ1)			4(テ1)			4			6			8			8(テ1)		6(テ1)			6(テ1)		6							
単 元 名 (教材名)	1、技術革新と産業社会の変化 2、現代の企業 3、市場経済のしくみ 4、国民経済の活動水準			1、市場と政府 2、財政と財政 3、金融の役割			1、高度経済成長と産業構造 2、経済のバブル化と崩壊 3、日本の財政 4、金融の自由化と国際化			1、自立した消費者への道 2、労働者の権利 3、現代の雇用・労働問題 4、社会保障の役割 5、公害防止と環境保全			1、企業活動のグローバル化 2、国際経済のしくみ 3、戦後国際経済とその変化			1、地域経済統合の進展 2、変容するロシアとアジアの経済 3、多様化する南の世界			1、国際社会の成り立ち 2、国際紛争をつづけるしくみ 3、国際連合の現状と課題		1、東西対立とその後の世界 2、核兵器と軍縮			1、環境・人口・食糧問題 2、民族問題と紛争		1、国際社会と人権 2、地球人としての役割 3、自由課題への取り組み		1、自由課題のまとめ					
単元のねらい	1、経済のしくみを歴史的視点で学ぶ姿勢を養う			1、株式会社の社会的必要事項を高める			1、経済成長を資料活用して養う			1、労働問題等から今日の社会意識を養う			1、国際取引の支活から養う			1、中国の急激な発展を国際的視野で学ぶ姿勢を養う			1、国際ルールを通して自己の意欲を養う		1、国際ルールを通して自己の意欲を養う			1、資料活用の技能表現を養う		1、自己の将来への道徳的野心的な態度を養う		1、自己の将来への国際的視野を養う					
学習の内容	1、資本主義経済の形成理解させる 2、現代の企業形態を理解させる 3、市場機構を理解させる 4、景気変動と政府の役割を科させる			1、市場経済を考えた日本経済の役割を科させる 2、はたして金融について理解させる			1、戦後の経済発展を理解させる 2、世界経済の経る中で日本が果たすべき役割を科させる 3、中・考財政の必要性を科させる			1、消費者主権の意義を理解させる 2、労働三法を理解させる 3、現代の社会的背景から労働問題の重要性を理解させる			1、経済のグローバル化を理解させる 2、国際取引の支活の理解させる 3、国際通貨制度について理解させる			1、地域統合化がもたらしている事実を理解させる 2、中国の経済改革の流れを科させる 3、南北問題に日割を理解させる			1、国際法のあるべき姿を理解させる 2、点課題を理解させる 3、PKOの意義について理解させる		1、戦後国際政治の流れを理解させる 2、軍縮の問題、課題を理解させる			1、食料問題の承継を科させる 2、民族問題の原因を科させる		1、人権保障の国際的取り組みを理解させる 2、日本の国際的貢献を理解させる		1、現代社会を学んだ総括					
補助教材	1、経済年表の活用			1、現在の経済状況をテレビ（クローズアップ現代）を現代を			1、日本の税制の作文紹介（税のコンクール）			1、老人問題等のテレビ視聴			1、トヨタの自動車輸出業を紹介			1、中国の経済躍進をビデオ視聴			1、イラク戦争と国際連合等のテレビ視聴		1、イラク戦争と国際連合等のテレビ視聴			1、世界国勢図活用		1、図書館活用インターネット		1、図書館活用インターネット					
評 価 テ ス ト	豆テスト			ノート提出			ワークノート提出			ノート提出 スクラップブックの提出			ワークノート提出			ノート提出 スクラップブックの提出		ワークノート提出			壁新聞づくり グループ発表		壁新聞づくり グループ発表										
社会科の 関連行事	社会科巡検																																